

辞書から見る同音・異形・同意漢語

宋 春玲

要旨

在日语当中，音读相同，字形相异，词义相近的汉语的数量很多。笔者从现代被广泛使用的《广词苑》（第五版），《日语大词典》（第二版）着手调查到大量用例，加以整理后，使用古代字典和近现代字典对这些用例进行调查。其中包括平安末期的《色叶字类抄》，室町末期的《古本节用集》以及江戸时代的《书言字考》《节用集大全》，明治时期的《言海》，明治时期的汉和字典。从字典的出现方式对这些同音・异形・同意的汉语进行了总结和分析，看到这类词在字典出现方式上的历史变迁过程。

キーワード…… 同音・異形・同意漢語 古辞書 歴史の変遷

はじめに

日本語には漢字音が同じで、漢字表記が違い、意味が近い漢語が多数ある。本研究は現代よく使われる『広辞苑』（第五版）『日本語大辞典』（第二版）から入手し、このような同音・異形・同意漢語の組み合わせを調べ、さらに古辞書からも同様な用例を見つけた。その結果、五八組が研究対象となった。これらの用例を現代辞書において漢字表記の五十音順で、まとめるものである。辞

書の現れ方により、同音・異形・同意漢語の時代的な流れを見るのが今回報告書の目的である。

本報告書に取り上げた辞書はそれぞれの時代において、代表的な辞書である。それらは平安末期の『色葉字類抄』（色葉）、室町時代末期の『古本節用集』（伊京集）、『明応五年本節用集』『天正十八年本節用集』『饅頭屋本節用集』『黒本本節用集』『易林本節用集』六種（古本）江戸時代の『書言字考』（書言）『節用集大全』（大全）、明治期漢語辞書『新令字解』（新令）、『漢語字類』（漢類）、『必携熟字集』（必携）、『新編漢語字林』（新林）、『言海』（吉川弘文館版）『広辞苑』（第五版）である。その中、『古本節用集』『伊京集』『明応五年本節用集』『天正十八年本節用集』『饅頭屋本節用集』『黒本本節用集』『易林本節用集』は、諸本が多いため、すべての諸本における同音・異形・同意漢語の現れ方をしめすことができない。したがって、現れ方がまったく同じ場合、諸本の名前だけを示す。このような時代的な流れを調査して、同音・異形・同意漢語が辞書において、変遷する様子を明らかにする。

研究対象となる五八組が五十音順で並ぶ。取り上げた用例は年代の順で並べる。

本文

愛敬・有敬・愛嬌

アイキョウ

古本

黒本本

アイキョウ

古本

易林本

饅頭屋本

愛敬 アイキヤウ 古本・明応本 アイキヤウ 愛敬 アイキヤウ 書言

愛敬 あいきやう 大全・態芸門 アイケイ 愛敬 アイケイ 必携

〔愛〕 アイメテ、インクシ、ケウカハコラ、
ム、カハユコル、一嬌シサ、一敬 ケイインクシ、
トム 新林

あいきやう 愛敬 『言海』

あいきよう 愛敬 あいきよう 愛嬌 『広辞苑』

悪逆・悪虐

悪逆 アクギヤウ 古本・饅頭屋本

悪虐 アクギヤウ 古本・黒本本 明応本 伊京集

悪逆 アクギヤウ 書言 悪逆 ギヤウスベテ、ミチニ
チガフコト 新林

あくぎやく 悪逆 『言海』

安佚・安逸

安佚 アンイツ 書言 〔安〕 アン | 佚 イツムダニナ
ン 新林

安逸 アンイツヤスシ 必携 あんいつ 安佚 『言海』

あんいつ 安佚 安逸 『広辞苑』

安坐・安座

安坐 アンザ 古本・易林本 安座 アンザ

あんざ 安坐 大全・言辞門 〔安〕 アン | 坐 ザオチツイ
ル 新林

あんざ 安坐 『言海』

あんざ 安座・安坐 『広辞苑』

安排・按排・按配・塩梅

安排 アンバイ 古本・明応本 伊京集 黒本本

按排 アンバイ 古本・饅頭屋本 易林本

按排 アンバイ 大全・言辞門 〔安〕 アン | 排 バイホドヨク、
ソヘ、スエル、 新林

あんばい 按排 『言海』

あんばい 塩梅・按排・按配 『広辞苑』

淫佚・姪佚・淫逸

淫佚インシチ

色葉・前田本

淫佚インシチ

古本・**易林本**

姪佚インシチ

大全・言辭門

淫佚インシチ

書言

〔淫〕ミダレハシ

―トウミダリゴハシク

―イッ

新林

いんいつ 淫佚・淫逸

『広辞苑』

栄華・栄花

栄華エイクワ エイクワ 色葉・前田本

栄華エイクワ

古本・**明応本**

栄花エイガ

古本・**饅頭屋本**

栄華エイガ

古本・**黒本本**

栄花エイガ

古本・**易林本**

栄花エイガ

大全・言辭門

栄華エイガ

必携

〔栄〕サカエリ ―クワ エイクワトヨム、トキ

新林

えいぐわ 栄華
えいが 栄華・栄花

『言海』
『広辞苑』

英氣・銳氣

えいエイ 英エイ ―キ 氣キ

新林

〔銳〕キ ―キ 氣キ

新林

銳氣エイキ

漢類

銳氣エイキ スルドキ

必携

えいき 英氣

『広辞苑』

英才・穎才

〔穎〕エイ ―エイ 才サイ

新林

〔英〕エイ ―エイ 才サイ

新林

英才エイサイ スグレタ

必携

えいさい 英才
えいさい 英才・穎才

『言海』
『広辞苑』

演説・演舌

〔演〕エン ―セツ 説セツ エンセツトヨム、人ニムカフ、

―ゼツ 舌ゼツ

新林

演舌エンゼツ ノベル
演説エンゼツ ノベル

必携

えんぜつ 演説

『言海』

えんぜつ 演説 演舌 『広辞苑』

嘉会・佳会

嘉会カクワイ

色葉・前田本

嘉会カクハイ

書言

嘉辰・佳辰

佳辰カシン

色葉・前田本

佳辰カシン

古本・**易林本**

嘉辰カシン

書言

嘉辰カシン

大全・言辭門

佳会カクワイ

大全・言辭門

嘉會カクワイ

必携

〔嘉〕ヨイ、ウツクシイ、スグレ
ル、ヨミスル、ヨロコブ
―辰シンイ、ロ
ガラ

新林

かかい 嘉会 『広辞苑』

格別・各別

隔別カクベツ

古本・**易林本**

各別カクベツ

古本・**黒本本**

〔佳〕ヨロシイ、カクヘンマダ
レ、ミエル、ノニイフ
―辰シンゴ

新林

『広辞苑』

各別カクベツ

大全・言辭門

隔別カクベツ

大全・言辭門

闊達・豁達

各別カクベツ

必携

格別カクベツ

必携

豁達クワツタツ

古本・**伊京集**

明心本

〔格〕―別ベツコトクケ

新林

豁達クワツタツ

古本・**饅頭屋本**

闊達クワツタツ

書言

かくべつ 格別
かくべつ 格別・各別

『言海』
『広辞苑』

闊達クワツタツ大義也

大全・言辭門

豁達クワツタツ

必携

〔豁〕―達ダツムネサバケテアル、トホリ

新林

豁達クワツタツサバケテイ

漢類

くわつたつ 闊達

『言海』

かつたつ 閑達・豁達 『広辞苑』

閑暇・間暇

閑暇かんか 色葉・前田本

閑暇かんか

書言

閑暇かんか 大全・態芸門

間暇かんかヒマ

必携

閑暇かんかヒマ 漢類

かんか 閑暇

『言海』

かんか 閑暇

『広辞苑』

閑居・間居

閑居 色葉・前田本

閑居かんきょ

古本・易林本

饅頭屋本

閑居かんきょ

書言

閑居かんきょ

大全・態芸門

〔間〕―居かんきょ 新林

閑居かんきょ 必携

閑居かんきょヒマデイル

漢類

〔閑〕―居かんきょ 新林

必携

かんきよ 閑居 『言海』

『広辞苑』

閑寂・間寂

閑寂かんせき 色葉・前田本

閑寂かんせき

古本・易林本

閑寂かんせき

書言

閑寂かんせき

大全・言辞門

閑寂かんせきシツカ

必携

かんじやく 閑寂 『広辞苑』

感歎・感嘆

感歎かんたん 色葉・前田本

感歎かんたん

古本・易林本

饅頭屋本

感歎かんたん

書言

感歎かんたん

大全・言辞門

感歎かんたんナゲク

必携

感歎かんたんナゲク

必携

〔感〕―歎かんたん 新林

『言海』

かんたん 感歎

かんたん 感嘆・感歎

『広辞苑』

閑談・間談

閑談 カンタン 色葉・前田本

閑談 カンタン 古本・易林本

閑談 カンタン 又三 書言

閑談 カンドン 大全・熊芸門

間談 カンダン 必携

〔間〕談 カンダン 新林

かんだん 閑談 『言海』
かんだん 閑談 『広辞苑』

肝要・簡要

簡要 カンヨウ 色葉・前田本

簡要又作簡要 カンヨウ 古本・黒本本

簡要 カンヨウ 古本・易林本

簡要 カンヨウ 古本・伊京集

肝要 カンヨウ 古本・易林本
明応本
饅頭屋本

肝要 カンヨウ 書言 肝要簡要 カンヨウ 大全・言辭門

簡要 カンヨウ シタホマカデ 漢類
〔簡〕要 カンヨウ 新林

簡要 カンヨウ ノコト 必携
肝要 カンヨウ ナルコト 必携

〔肝〕心 カンシン 要 エウ 新林

かんえう 肝要 『言海』
かんよう 肝要 『広辞苑』 かんよう 簡要 『広辞苑』

簡略・勘略 カンリョク 色葉・前田本

簡略 カンリョク 伊京集 明応本 易林本

簡略 カンリョク 古本・伊京集 明応本 易林本

勘略 カンリョク 古本・饅頭屋本 易林本

勘略 カンリョク 書言

簡略 カンリョク 勘略 カンリョク 大全・言辭門

簡略 カンリョク 必携 簡略 カンリョク 漢類

〔簡〕約 カンヨク 略 リョク 新林

かんりやく 簡略 『言海』
かんりやく 簡略 『広辞苑』

祈誓・祈請・祈精

祈請キセイ 色葉・前田本

祈誓キセイ 古本・易林本

伊京集

明応本

黒本本

饅頭屋本

祈精 祈請 古本・易林本

祈誓キセイ

書言

祈誓キセイ 一請クニ 大全・熊芸門

祈誓キセイ イノリ

必携

きせい祈誓 『言海』

きせい祈請 『広辞苑』

希代・奇代・稀代

希代キタイ 非常 色葉・前田本

希代キタイ 古本・易林本

饅頭屋本

伊京集

黒本本

奇代キタイ 古本・易林本

希代キタイ

書言

奇代キタイ 大全・言辭門

希代キタイ ヨニ

必携

きたい 希代
きたい 希代・稀代

『言海』
『広辞苑』

吉祥・吉上

「吉」キツ 上シヤウ 兆チウ 祥シヤウ

吉祥キツ 必携

さちじやう 吉祥 吉上

さちじよう 吉祥

さちじよう 吉祥

究明・糾明・糺明

究明キウメイ 必携

糾明キウメイ 必携

きうめい 糾明

きゆうめい 糾明・糺明

教戒・教誠

教誠ケウケイ 色葉・黒川本

教誠ケウケイ 古本・易林本

教誠ケウケイ

書言

教誠 <small>けうかい</small>	大全・言辭門	教誠 <small>ケウカイ</small> マシムヘイ	必携
きようかい	教戒・教誠	『広辞苑』	
屈伏・屈服			
屈伏 <small>クツブク</small>	古本・明応本	黒本本	
屈伏 <small>クツブク</small>	古本・易林本	伊京集	
屈伏 <small>クツブク</small>	書言	くつぶく 屈伏	大全・言辭門
屈伏 <small>クツブク</small>	必携	〔屈 <small>カガム</small> カガメル・ 服 <small>フク</small> シタカフ〕	新林
くつぶく	屈伏	『言海』	
くつぶく	屈伏・屈服	『広辞苑』	
稀有・希有			
稀有 <small>ケウ</small>	色葉・黒川本		
稀有 <small>ケウ</small>	古本・易林本	明応本	
稀有 <small>ケウ</small>	古本・易林本	饅頭屋本	
稀有 <small>ケウ</small>	書言	黒本本	
稀有 <small>ケウ</small>	書言	稀有 <small>けう</small>	大全・言辭門
稀有 <small>ケイ</small> マレニ			
稀有 <small>ケイ</small> マレニ	必携		
けう	希有		
けう	希有・稀有	『言海』	
現在・見在		『広辞苑』	
見在 <small>ケンサイ</small>	色葉・黒川本		
見在 <small>ケンサイ</small>		見在 <small>ケンサイ</small>	古本・易林本
見在 <small>ケンサイ</small>	書言	見在 <small>ケンサイ</small>	大全・言辭門
見在 <small>ケンサイ</small>	必携	見在 <small>けんざい</small> マシムヘイ 見在 <small>ケンサイ</small>	漢類
げんざい	現在	『言海』	
げんざい	現在・見在	『広辞苑』	
拘引・勾引			
勾引 <small>コウイン</small>	古本・易林本	勾引 <small>コウイン</small>	書言
勾引 <small>コウイン</small>	古本・易林本	勾引 <small>コウイン</small> トラヘク	新林
勾引 <small>コウイン</small>	大全・言辭門	勾引 <small>コウイン</small> ルコト	
〔拘〕一引 <small>コウ</small> インオサエテ	新林	勾引 <small>コウイン</small> ヒキイレル。	漢類

コウインヒキイ
勾引レ

必携

「勾」コウ引コト | 引インカドハ

新林

「拘」クコウトモコムオホシニク
「引」インコトモオホシニク

— 引インヒキタテル、ヒキタテ、ツレユク、ツミノアルモノヲ
ヤクテンヨナドカヤクニンガツレユクノニイフコトハ

新林

こういん 勾引

『言海』

こういん 拘引

『言海』

こういん 拘引・勾引

『広辞苑』

廣言・荒言

クワウゲン
荒言

古本・伊京集

黒本本

明応本

クワウゲン
廣言

古本・易林本

クワウゲン
荒言

書言

クワウゲン
廣言

書言

クワウゲン
廣言

大全・言辭門

クワウゲン
荒言

大全・言辭門

「廣」クワウ—ゲン言マ

新林

くわうげん 廣言
こうげん 廣言・荒言

『言海』
『広辞苑』

交替・交代

カウタイ
交代カハリ

必携

「交」カウ—タイ替コウタイト | 代ダイカハリ

新林

かうたい 交代

『言海』

こうたい 交代

『広辞苑』

強敵・剛敵

カウテキ
強敵

古本・易林本

カウテキ
強敵

書言

がうてき 強敵

大全・態芸門

ごうてき 強敵・剛敵

『言海』
『広辞苑』

降伏・降服

カウフク
降伏コト

新令

カウフク
降伏カウサン

必携

「降」カウクダル、シタ
「伏」フクカウサン

新林

カウフク
降伏カウサン

「降」カウクダル、シタ
「服」フクカウサン

新林

カウフク
降伏カウサン

「降」カウクダル、シタ
「服」フクカウサン

新林

カウフク
降伏カウサン

「降」カウクダル、シタ
「服」フクカウサン

新林

かうふく 降伏
こうふく 降伏・降服
『言海』
『広辞苑』

強力・剛力

強力 カウリキ 色葉・前田本

カウリキ 強力

古本・**易林本**

ガウリキ 強力

書言

がうりき 強力

大全・態芸門

「強」^{キヤウ}「彊」^{キヤウ} ^{ツヨクイ、アラ} | ^{リコウ}力 ^{チカラノフコイ}

敵 ^{テキ} ^{フコイ}

新林

がうりき 強力
ごうりき 強力・剛力
『言海』
『広辞苑』

才智・才知

サイチ 才智 古本・**易林本**

サイチ 才智

書言

さいち 才智 大全・態芸門

サイチ 才智 ^{カンコキ} ^{チエ}

必携

「才」^{サイ} ^{ココロノハツ} | ^チ智 ^{ココロノハツ}

新林

さいち 才智
さいち 才智
さいち 才智・才智
『言海』
『広辞苑』

讃嘆・讃歎・贊嘆

讃嘆 サンタン 色葉・前田本

讃嘆 サンタン 讃嘆同

古本・**易林本**

讃歎 サンタン 古本・**明応本**

讃歎 サンタン

古本・**黒本本**

讃歎 サンタン 書言

讃歎 ^{さんたん}

大全・態芸門

讃歎ホメル サンタン 必携

新林

「讃」^{サン} ^{ホメテ、} | ^{シヨウ}稱 ^{ホメテ} | ^{ダン}歎 ^上

さんたん 讃嘆
さんたん 讃嘆
さんたん 讃嘆・讃歎・贊嘆
『言海』
『広辞苑』

失策・失錯

「失」^{シツ} ^{ツシヤフ、} | ^{サツ}策 ^失

新林

失策 シツサク ヤリン

必携

「失」^{シツ} | ^{サク}錯 ^リ

新林

失錯 シツサク コトヲア

必携

失錯 シツサク ヤメル 新令

失策 ヤリンコネ

新令

しつさく 失錯
しつさく 失錯
しつさく 失策・失錯
『言海』
『広辞苑』

若年・弱年

若年シヤクネン若少 古本・**易林本**

若年シヤクネン 古本・**饅頭屋本**

愁嘆・愁歎

愁嘆シウタン 古本・**黒本本** **明心本**

弱年シヤクネン 又作若年
出入編 書言

若年じやくねん 大全・言辭門

愁歎シウタン 古本・**易林本** **饅頭屋本**

「若」シヤク「年」ネン 新林

「弱」シヤク「ト」コウイ「年」ネン 新林

愁歎出ノ字 書言 愁歎しうたん 大全・言辭門

弱年シヤクネン 必携

「愁」シウ「ウレハ」ク「歎」ク 新林

じやくねん 若年 『言海』
じやくねん 弱年・若年 『広辞苑』

しうたん 愁歎 必携
しうたん 愁歎
しゆんたん 愁嘆・愁歎
『言海』
『広辞苑』

弱輩・若輩

若輩シヤクハイ 古本・**易林本**

明心本 **饅頭屋本**

手跡シユセキ 古本・**易林本** **饅頭屋本**

弱輩シヤクハイ 書言

若輩じやくはい 大全・人倫門

手跡シユセキ 書言 手跡しゆせき 大全・言辭門

若輩シヤクハイ 必携

若輩シヤクハイ 新林

「手」シユ「本」ホ「ハ」シユ「」セキ「跡」セキ「カ」イ「」ト「モ」ノ「ア」ト 新林

じやくはい 若輩
じやくはい 弱輩・若輩

『言海』
『広辞苑』

しゆせき 手跡
しゆせき 手跡・手蹟
『言海』
『広辞苑』

巡礼・順礼

順礼 ジュンレイ 古本・饅頭屋本

巡礼 ジュンレイ 古本・易林本

巡礼 ジュンレイ 書言

順礼 ジュンレイ 大全・天地門

巡礼 ジュンレイ 大全・言辞門

〔巡〕— 禮 レイ クニグニノヒキサド ワラガミマハル 新林

じゆんれい 巡禮
じゆんれい 巡礼・順礼

『言海』
『広辞苑』

称嘆・称歎

称嘆 ショウタン 古本・易林本

称嘆 ショウタン 書言

称嘆 ショウタン 大全・言辞門

稱嘆 ショウタン ホメル 必携

称嘆 ショウタン ホメタタル 漢類

しょうたん 称嘆・称歎
『広辞苑』

信向・信仰

〔信〕— 向 カウ フツケウノコトバ ホトケヨシメル 仰 ギヤウ シンカウトヨ ム 同上 新林

信仰 シンカウ コトニシ 必携

信向 シンカウ ハミ 必携

しんかう 信向 信迎
しんこう 信仰
『言海』
『広辞苑』

切斷・截斷

切斷 セツタン 古本・易林本
明心本
饅頭屋本
黒本本

截斷 セツタン 書言

截斷 セツタン 臨終 大全・言辞門

じやうざ 上座

『言海』
『広辞苑』

じやうざ 上座

『言海』
『広辞苑』

じやうざ 上座

『言海』
『広辞苑』

切断セツダン 必携
切断セツダン 必携

〔切〕セツ 断ダン 新林
〔折〕セツ 断ダン 新林

せつだん 切断
せつだん 切断・截断
『言海』
『广辞苑』

掃除・掃治
掃除サウヂ 色葉・前田本

掃地サウヂ 古本・饅頭屋本
掃地サウヂ 古本・易林本

掃治サウヂ 古本・明応本
掃地又作掃治サウヂ 古本・黒本本

掃除サウヂ 書言
掃除サウヂ 地チ 同トウ 大全・態芸門

掃除サウヂ 必携
〔掃〕サウ 除ヂ 新林

そうじ 掃除
『广辞苑』

属目・囑目

属目ノクモク 必携
囑目ノクモク 新林

ぞくもく 属目
『广辞苑』

退治・対治

対治タイヂ 古本・易林本
『饅頭屋本』

退治タイヂ 古本・明応本
『伊京集』

退治タイヂ 古本・饅頭屋本
退治タイヂ 書言

対治タイヂ 大全・言辞門
退治タイヂ 大全・言

辞門 〔退〕タイ 治チ 新林

たいぢ 退治
たいじ 退治・対治
『言海』
『广辞苑』

颠狂・癡狂

颠狂テンキヤウ 色葉・前田本

颠狂テンキヤウ 古本・易林本
颠狂テンキヤウ 書言

颠狂テンキヤウ 大全・態芸門
颠狂テンキヤウ 必携

〔颠〕テン 狂キヤウ 新林
てんきよう 颠狂
『广辞苑』

独坐・独座

獨坐 トクザ 古本・**易林本**

獨坐 トクザ

書言

筆跡・筆蹟

筆跡ヒツセキ 色葉・前田本

筆跡 ヒツセキ

古本・**易林本**

独座 トクザ 大全・言辭門

筆迹 ヒツセキ 書言

筆跡 ヒツセキ

大全・言辭門

〔獨〕 — 坐 ヒトリヂスワル、ツレモノチクタ、ヒトリヂスワル、ヨシカチノ、カチチノ小サイモノ、 新林

〔筆〕 — 跡 セキ、フデノ 新林

獨座 トクザ 必携

ひつせき 筆蹟 〔言海〕
ひつせき 筆跡・筆蹟 〔広辞苑〕

どくざ 独座・独坐

〔広辞苑〕

敷衍・布衍

布衍 フエン、ヒロガルト 必携

敷衍 フエン、マンヒロ 新林

悲歎・悲嘆

悲歎 ヒクタン 古本・**易林本**

悲歎 ヒクタン 書言

悲歎 ヒクタン 大全・言辭門

悲歎 ヒクタン、カナシミ、ナゲク 必携

悲歎 ヒクタン シウシヨウスル 漢類

〔悲〕 ム、カナン、クシ、カナシミ、ナゲク、 新林

ひたん 悲嘆・悲歎

〔言海〕

ひたん 悲嘆・悲歎

〔広辞苑〕

不審 フシン 古本・**易林本**

不審 フシン 書言

不審 フシン 古本・**伊京集** **饅頭屋本** **易林本**

不審 フシン 色葉・黒川本

不審・不信

ふえん 敷衍 布衍 〔言海〕
ふえん 敷衍 布衍 〔広辞苑〕

不審ふしん 大全・言辭門

不審フシン 必携

「不」一審フ シン 新林

不審フシン 必携

「不」一信フ シン 新林

不審フシン 必携

ふしん 不審 『言海』
ふしん 不信 『広辞苑』

冥途・冥土

冥途マイド 色葉・黒川本

冥途マイド 古本・饅頭屋本 易林本

冥途マイド 書言 冥途めいど 大全・天地門

「冥」一土マイ クライ 新林

めいど 冥土 『言海』

めいど 冥土・冥途 『広辞苑』

連絡・聯絡

連絡レンラク 必携 「連」一絡レン 新林

聯絡レンラク 必携 「聯」一絡レン 新林

れんらく 連絡 聯絡 『言海』
れんらく 連絡 聯絡 『広辞苑』

まとめ

平安末期の『色葉字類抄』室町末期の『古本節用集』、江戸時代の『書言字考』『節用集大全』、明治時代の『新令字解』『漢語字類』『必携熟字集』『新編漢語字林』、『言海』『日本大辞書』、現代の『広辞苑』を通して、同音・異形・同意漢語の辞書において、時代の流れについて表でまとめてみた。

辞書の現れ方によって、同音・異形・同意漢語の傾向について、次の表で述べてみる。表の各欄の用例はすべて、五十音順で並べてある。

同音・異形・同意漢語は辞書の現れ方による分類

一	<p>安坐・安座、安排・按排、荣花・荣華、英才・穎才、演說・演舌、佳辰・嘉辰、豁達・闊達、肝要・簡要、吉祥・吉上、荒言・廣言、交代・交替、失錯・失策、若年・弱年、若輩・弱輩、手跡・手迹、巡礼・順礼、上座・上坐、属目・瞩目、退治・对治、筆跡・筆迹、敷衍・布衍、不審・不信、冥土・冥途、連絡・聯絡</p>
二	<p>安佚・安逸、感歎・感嘆、教誠・教戒、屈伏・屈服、希有・稀有、現在・見在、勾引・拘引、強敵・剛敵、強力・彊力、剛力、才智・才智、讚歎・讚嘆、贊嘆・愁嘆、愁歎、称歎・称歎、切断・截断、獨座・獨坐、悲歎・悲嘆</p>
三	<p>英氣・銳氣、信仰・信向</p>
四	<p>惡逆・惡虐、英氣・銳氣、嘉会・佳会、閑暇・間暇、閑居・間居、閑寂・間寂、閑談・間談、顛狂・癡狂</p>
五	<p>愛敬・有敬、愛嬌・淫佚、姪佚・淫逸、格別・各別、隔別、簡略・勘略、簡畧、折誓・折請、折精、希代・奇代、稀代、糾明・糺明、究明、掃除・掃治、掃地</p>

表の内容について、以下のようなことが言える

一、中世から、現代にかけて、混ぜて使う用例が二三組がある。

イ、「簡要・肝要、吉祥・吉上、荒言・広言、交代・交替、

若年・弱年、敷衍・布衍」六組は各時代の辞書において、

同音漢語の両方とも辞書に現れる。

ロ、中世、江戸時代の辞書において、同音漢語の両方とも

掲出されるが、明治時代の辞書において、同音漢語の片方が現れ、『広辞苑』には同音漢語の両方とも登場する用例がいくつもある。

「栄花・栄華」は『色葉字類抄』には「栄華」という形で現れ、『古本節用集』の「黒本本」には「栄華」で現れるが、『古本節用集』の「易林本」には「栄花」で掲出される。明治時代の漢和辞典『必携熟字集』、『新編漢語字林』と『言海』には「栄華」で現れる。『広辞苑』には「栄花・栄華」両方とも現れる。「按排・安排」は『古本節用集』の「明応本」と「饅頭本」には「安排・按排」という形で掲出される。明治期の『新編漢語字林』と『言海』には「按排」で現れ、『広辞苑』にはいきなり「塩梅」が登場し、「按排・塩梅・按配」という形になる。

一、このような漢語は後「英才・穎才、演説・演舌、嘉辰・佳辰、豁達・闊達、失錯・失策、若輩・弱輩、巡礼・順礼、手跡・手迹、上座・上坐、属目・瞩目、退治・対治、

筆跡・筆迹、不審・不信、冥土・冥途、連絡・聯絡」がある。

二、現代辞書において同音・異形漢語は両方とも掲出され、時代を遡ると、漢語の片方しか現れない用例がある。

イ、明治以前の辞書において、同音漢語の片方が辞書に現れるが、明治期の辞書と現代辞書に同音・異形・同意漢語の両方とも現れる用例は一〇組がある。

「希有・稀有」は古辞書において、「希有」で登場した。明治期『必携熟字集』には「稀有」が現れ、現代辞書において、同音漢語の両方とも掲出される。

このような同音・異形・同意漢語は、このほかに「安佚・安逸、感歎・感嘆、屈伏・屈服、勾引・拘引、讚歎・贊嘆、贊嘆・愁嘆・愁歎、切断・截断、獨座・獨坐」がある。

ロ、現代において、同音・異形・同意漢語の両方とも使われ、その前の辞書には漢語の片方で現れる用例も七組ある。

「強敵・剛敵、強力・剛力」は古辞書と明治時代の辞書には「剛」 という形で一度登場したことがない。『広辞苑』だけ現れた。この範囲では、『広辞苑』の出方には不信に思われる。

これと同じで、「教戒・教誡、見在・現在、才智・才知、称嘆・称歎、悲歎・悲嘆」がある。

三、明治期辞書には「鋭氣・英氣」「信仰・信向」両方とも登場するが、現代辞書には「英氣」「信仰」というふうに見れる。

四、現代辞書においては漢語の片方しか見れないが、中世、江戸時代の古辞書か明治期辞書には、同音・異形・同意漢語が見れることがある漢語の数も一〇組ある。

イ、『広辞苑』には「悪逆」だけ登場した。『古本節用集』の「黒本本」「明応本」「伊京集」には「悪虐」が見れる。

ロ、「節用集大全」には「嘉会」が見れ、その以外の辞書にはすべて「佳会」という形で掲出される。

ハ、「間暇・間談」は『新編漢語字林』、「間暇・間寂」は『必携熟字集』において「間―」という漢語が見れたが、その以外の全ての辞書には「閑―」という形で現れる。

二、「顛狂」は『書言字考』『新編漢語字林』には見れるが、その以外の辞書には「癡狂」で登場される。

五、音・異形・同意漢語が辞書の現れ方の時代の流れを見ると、消滅した漢語もある。

イ、古辞書において、同音漢語のいくつかの形で現れるが、時代が移っていくと、ある現れ方が失われる漢語がある

「各別・格別」は『古本節用集』には「格別・各別」で出現し、『節用集大全』には「隔別」が見れた。『広辞苑』には「隔別」がなくて、「各別・格別」で登場した。「隔別」が消えた。「簡略・勘略・簡畧」の「勘略」、「掃除・掃治・掃地」の「掃治・掃地」、「祈誓・祈請・祈精」の「祈請・祈精」が時代の流れともに使われなくなった。

ハ、古辞書における同音漢語の現れ方がなくなり、その代わりに新しく現れる同音漢語も四組ある。

「愛敬・愛嬌」は古辞書には「愛敬」で見れることが多い。『古本節用集・黒本本』には「有敬」で掲出される。現代辞書には「有敬」が見れなくて、その代わりに「愛嬌」が出現した。

古辞書に「究明・糾明」で見れるが、現代辞書において、「究明」がなくなり、その代わりに「糺明」が登場した。

これと同じで、「淫佚・姪佚」の「姪佚」が消滅され、「淫逸」が浮上した。「希代・奇代」の「奇代」がなくなり、「稀代」が現代辞書に見れた。

本報告書は、辞書における現れ方により、時代の流れを見てまとめたものである。この調査によって、同音・異形・同意漢語の辞書における現れ方の歴史的な流れを見ると、明治期は変動が活

発な時期であることが明らかになる。「栄花・栄華、演説・演舌、闊達・豁達」などの用例がほとんど明治期の辞書、主に『新編漢語字林』、『必携熟字集』『言海』において、これまで違う現れ方で出現する。

また、『古本節用集』においても、同音漢語の特別な形が現れることもある。「愁嘆」は『古本節用集・黒本本・明応本・』に現れ、その以外の『古本節用集・易林本』『節用集大全』『書言字考』において、「愁歎」で辞書に現れる。「悪虐」は『古本節用集・黒本本・明応本・伊京集』に掲出された。その以外の古辞書と現代辞書においてすべて「悪逆」で掲出される。

これらの用例は実際の文献にはどういう形で現れるか、今後の課題として、引き続き調査する必要がある。明治時代はこれらの漢語の変化の時期であるのが明らかである。その理由を明らかにするのも今後の一つの課題である。

調査文献

『色葉字類抄研究並びに索引』（中田祝夫・峰岸明 一九七七年風間書房）

『古本節用集六種研究並びに総合索引』（中田祝夫 一九七九年風間書房）

風間書房）

『書言字考節用集研究並びに索引影印編』（中田祝夫 一九七九年風間書房）

風間書房）

『恵空編節用集大全研究並びに索引篇』（中田祝夫 一九七五年勉誠社）

勉誠社）

『漢語辞書四種総合索引』（松井栄一 木村晟 一九九七年大空社）

大空社）

『日本大辞書』（山田美妙 一八九三年 日本大辞書発行所）

『言海』（大槻文彦 一八九一年 古川弘文館）

『日本語大辞典』（第二版）（一九九五年 講談社）

『広辞苑』（第五版）（一九九八年 岩波書）

主指導教員（舩城 俊太郎教授）、副指導教員（大石 強教授、井村哲郎教授）